〔乳母のふみ〕るは、わざとたてたる御のうまでこそ候はずとも、人のかたちなどうつくしくかきならひて、物語るなど詞めづらしくつくり出て、もたせおはしまし候へ、大かたるとてもかたくなならぬほどにかきならひて、御屏風の墨がき、色紙などをもかゝせおはしましたらんこそよき御事にて候べども、それまでおよび候はずはのことにて候、

〔兵範記〕仁安三年九月廿九日丁亥、早旦行水解除參行事所、諸國召物多辨濟、大夫史同參著、御調度塗調螺鈿地少々居具、又蒔繪物、宗茂畫繪樣、四尺御屏風、同墨畫、凝御插頭臺風流、銅細工劒造召付之、

〔雅亮裝束抄 一〕もやひきしのてうどたつる事

その二かいのうしろにやまとるの四尺の屏風を、もやのはしらのきはよりはしさまに、きやうだいなどのうしろまでたつべし、ひきしのまぜばくてひだふかくはたゝみておくのはしらのきはに三三枚もたゝめはしにみちあるやうにたつべしがら繪のもたつることあれども、つねはやまと繪なり、

〔枕草子 八〕むかしおぼえてふようなる物

からるの屏風のおもてそこなはれたる

〔尺素往來〕書院置物者、〇中略屏風者、水墨、八景之唐繪、請或僧谷寫之、

〔永昌記〕保安五年六月五日、七夜六日、今日以後鳴弦殿上人二人、〇中略公卿座如夜々儀、但撤白屏風、立倭畫屏風、

〔殿暦〕永久三年九月廿日丙戌、今日御幸沙汰營之、　廿一日丁亥、母屋西第二三四間、東西北三方立廻五尺泥繪倭繪御屏風五帖、

〔兵範記〕仁安三年十三月十日丁酉、大嘗會悠紀所注進御物目錄事、〇中略